

東芝 Aplio の使用経験

～乳房検査における ApliPure と PanoramicView の有用性～

聖路加国際病院 放射線科

角田博子

今回、東芝社製 Aplio を使用する機会を得たので、その使用経験について紹介する。近年の超音波装置はその B モードの性能が非常に改善され、空間解像力のすぐれた画像を提供してくれている。Aplio もその B モード画像に優れ、かなり皮膚面にちかい部分から大胸筋までの透過性もすぐれた画像となっている。特に、ApliPure は空間コンパウンドと周波数コンパウンドを同時に行う新技術で、コントラスト分解能、空間分解能のよい画像を経験した。リアルタイム性にも優れており、スキャンスピードに依存しないため動的検査などの評価もしやすいものと思われた。通常のコンパウンドスキャンでは、クリニカルマーカと呼ばれる超音波の音響学的特性がむしろ消されてしまう傾向にあるが、この装置ではクリニカルマーカを失うことがないので、後方エコーなどのむしろ診断に必要な情報をも得ることができた。PanoramicView では、B モードの質の劣化がないことと、2 画面同時表示にて、PanoramicView とその一部を通常のサイズで表示でき、全体の位置関係と部分的な詳細を同時に描出することができる。臨床的に使い勝手のよかったことのひとつにカラードプラ検査がある。カラー画像を得る時間が非常に短く時間のロスがないこととカラードプラで観察している際の B モード画像の劣化がないことは忙しい外来時にはありがたい性能であった。細胞診や組織診を行ううえでは、マトリックスで厚み方向をしばった探触子は、むしろわずかな針の走行のずれが画面上の針を同定しにくくしてしまうという欠点がある。しかしながら、フォーカスを絞ったその面にぴたりと針があれば、むしろ厚み方向のずれのために画像上ターゲットに針を刺入できているように見えて、実はずれが生じているといったあやまりを防げることになり、上手に利用していく必要があると思われた。今回は実際に経験した画像を提示し紹介したい。